

調査の結果

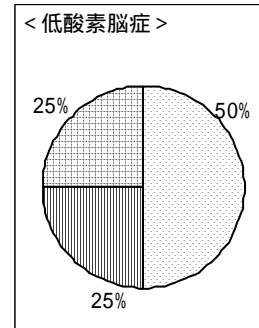
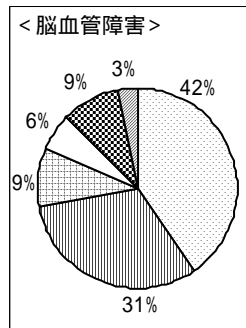
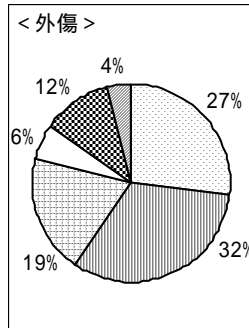
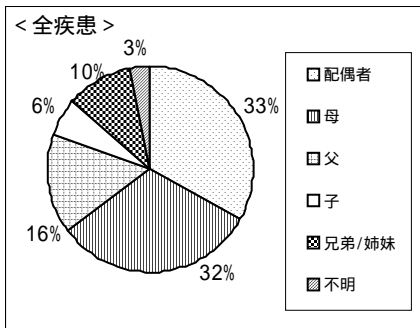
基本的事項

[1] 記入者

・ 続柄

88人中「配偶者」29人(33%)、「母」28人(32%)が最も多く、次いで「父」14人(16%)、「兄弟・姉妹」9人(10%)の順であった。疾患別でも同様の結果であったが、「外傷」では、「母」17人(32%)と「父」10人(19%)と両親の占める割合が半数を超えており、身内で支えている状況が改めて明らかとなった。

	配偶者	母	父	子	兄弟/姉妹	不明	合計
外傷	14	17	10	3	6	2	52
脳血管障がい	13	10	3	2	3	1	32
低酸素脳症	2	1	1	0	0	0	4
合計	29	28	14	5	9	3	88



・ 年齢

記入者の平均年齢は 56.99 ± 11.54 歳 (平均 ± 標準偏差) であった。

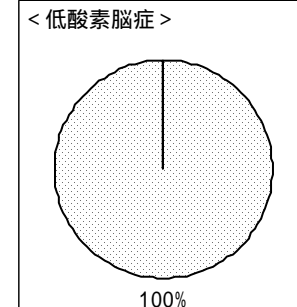
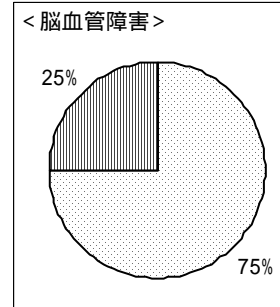
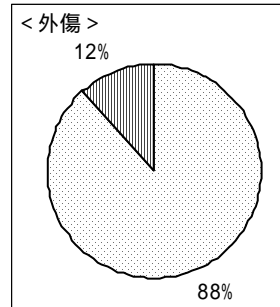
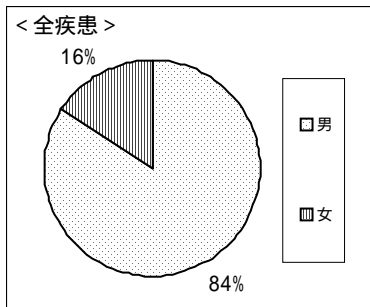
	全体	外傷	脳血管障がい	低酸素脳症
平均年齢	56.99	56.30	58.17	56.75
標準偏差	11.54	10.86	12.68	13.50
標準誤差	1.26	1.54	2.31	6.75
最少年齢	27	27	33	38
最高年齢	79	78	79	70

[本人]

・性別

88人中「男性」74人(84%)、「女性」14人(16%)と男性が8割を超えていた。特に「外傷」と「低酸素脳症」ではその割合が高かった。

	男	女	合計
外傷	46	6	52
脳血管障がい	24	8	32
低酸素脳症	4	0	4
合計	74	14	88



・年齢

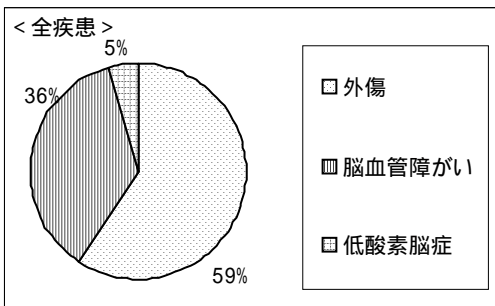
平均年齢は44.88±17.38歳(平均±標準偏差)であった。平均年齢は「脳血管障害」が最も高く、「外傷」が最も低かった。

本人	全体	外傷	脳血管障がい	低酸素脳症
平均年齢	44.88	42.18	49.10	46.75
標準偏差	17.38	15.87	19.46	16.15
標準誤差	1.87	2.22	3.61	8.08
最少年齢	8	14	8	34
最高年齢	81	72	81	70

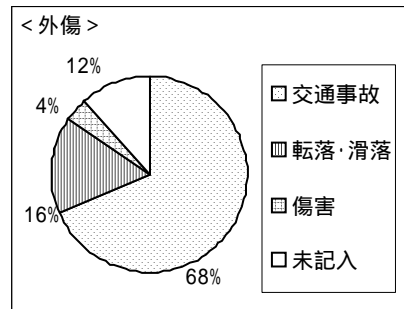
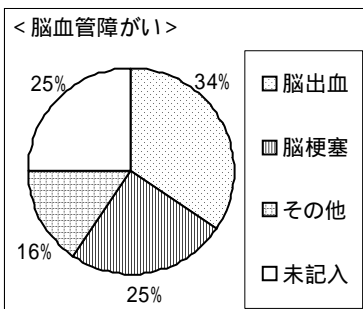
・疾患名

88人中、「外傷」52人（59%）と最も多く、次いで「脳血管障がい」32人（36%）、「低酸素脳症」4人（5%）であった。疾患別では、「外傷」では「交通事故」35人（68%）が最も多く、「脳血管障がい」では「脳出血」11人（34%）が最も多かった。

	外傷	脳血管障がい	低酸素脳症	合計
合計	52	32	4	88



外傷	交通事故	転落・滑落	傷害	その他	未記入	合計
	35	8	2	0	7	52
脳血管障がい	脳出血	脳梗塞	その他	未記入	合計	
	11	8	5	8	32	
低酸素脳症	低酸素脳症				合計	
	4				4	



・発症（受傷）日

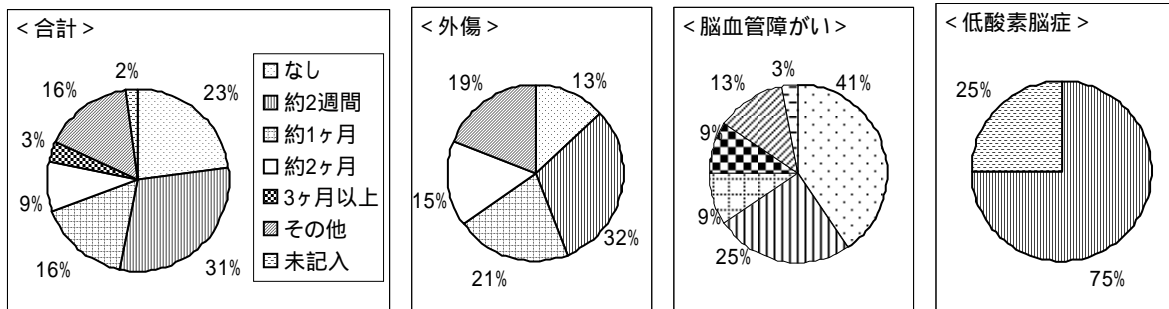
発症（受傷）からの期間は、全体では平均6年3ヶ月±85.74ヶ月（平均±標準偏差）であった。最も期間が短かったのは、「外傷」と「脳血管障がい」の4ヶ月であり、最も期間が長かったのは「外傷」の512ヶ月（42年7ヶ月）であった。

	全体	外傷	脳血管障がい	低酸素脳症
平均(月)	75.68 6年3ヶ月	79.87 6年7ヶ月	70.39 5年9ヶ月	62.25 5年2ヶ月
標準偏差	85.74	91.03	82.18	38.64
標準誤差	9.19	12.62	14.76	19.32
最小期間	4	4	4	17
最大期間	512	512	352	108

意識不明の期間

全体では、「約2週間」27人(31%)が最も多かった。疾患別では「脳血管障がい」で「意識不明なし」が13人(41%)と、他の疾患に比べ多い割合であった。「外傷」において7人(13%)の方が意識障がいがなくとも高次脳機能障がいを生じていた。

	なし	約2週間	約1ヶ月	約2ヶ月	3ヶ月以上	その他	未記入	合計
外傷	7	16	11	8	0	10	0	52
脳血管障がい	13	8	3	0	3	4	1	32
低酸素脳症	0	3	0	0	0	0	1	4
合計	20	27	14	8	3	14	2	88

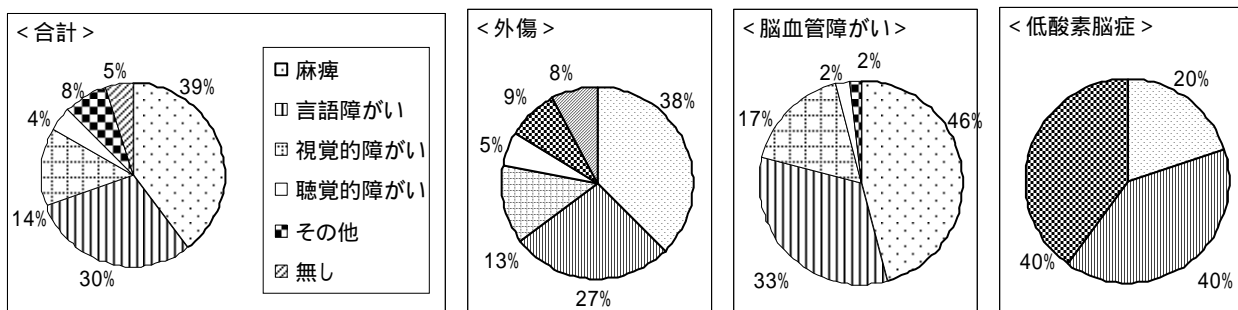


主な身体的後遺症 (複数回答)

全体では、「麻痺」57人(39%)、「言語障がい」43人(30%)の2症状が多かった。「身体的後遺症無し」も7人(5%)いたが、数項目の障がいを重複している方も多かった。

「低酸素脳症」では「視覚的障がい」「聴覚的障がい」と回答した方はいなかった。

身体的後遺症	麻痺	言語障がい	視覚的障がい	聴覚的障がい	その他	無し	合計
外傷	34	25	12	5	8	7	91
脳血管障がい	22	16	8	1	1	0	48
低酸素脳症	1	2	0	0	2	0	5
合計	57	43	20	6	11	7	144

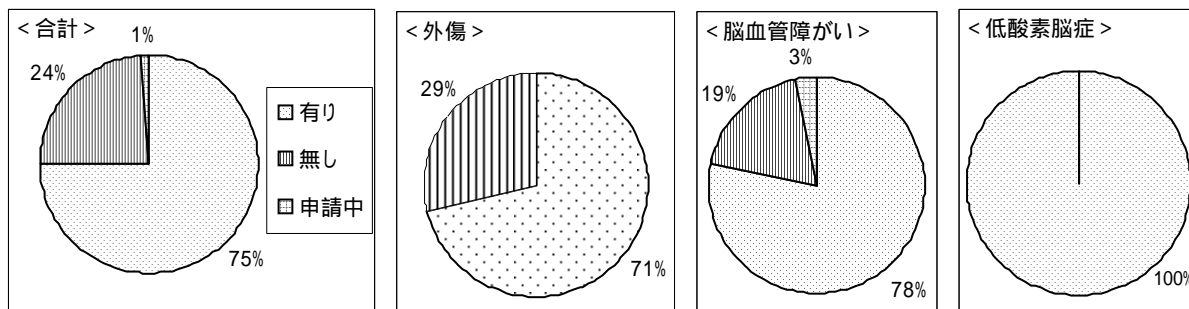


[手帳]

・有無

全体では、「有り」66人（75%）であり、7割以上が何らかの手帳を取得していた。

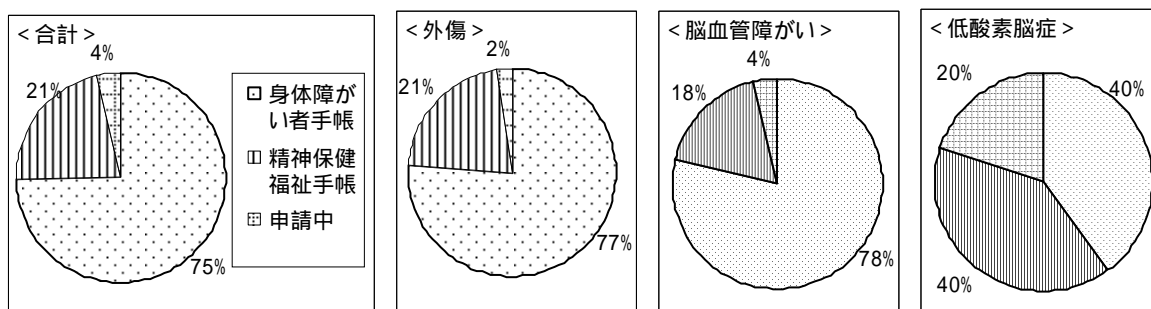
手帳	有り	無し	申請中	合計
外傷	37	15	0	52
脳血管障がい	25	6	1	32
低酸素脳症	4	0	0	4
合計	66	21	1	88



・手帳の種類（複数回答）

手帳取得者の66人中、「身体障がい者手帳」を取得されている方56人（75%）と最も多かった。複数の手帳を取得されている方もあった。まだ精神保健福祉手帳の取得が少ない状況が伺われた。

手帳(種類)	身体障がい者手帳	療育手帳	精神保健福祉手帳	申請中	合計
外傷	32	0	9	1	42
脳血管障がい	22	0	5	1	28
低酸素脳症	2	0	2	1	5
合計	56	0	16	3	75

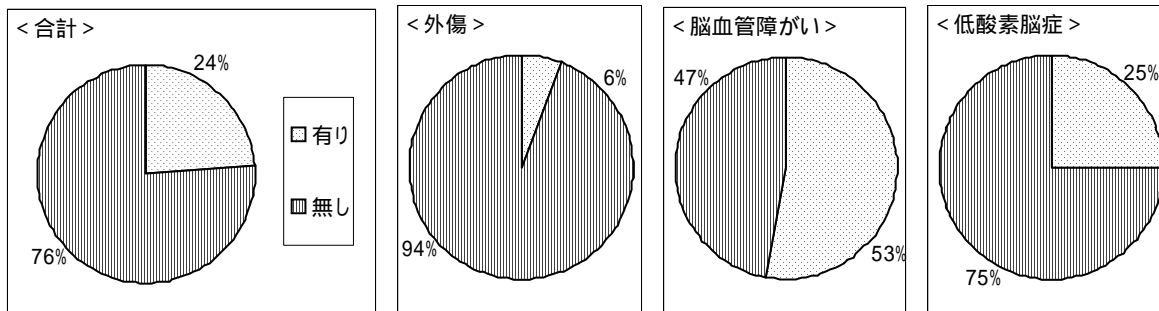


[介護保険]

・有無

全体では、介護保険「有り」が21人（24%）と4分の1の取得率であった。特に、「外傷」、「低酸素脳症」ではその割合が低く、介護保険認定がかなり厳しい状況であることが明らかになった。

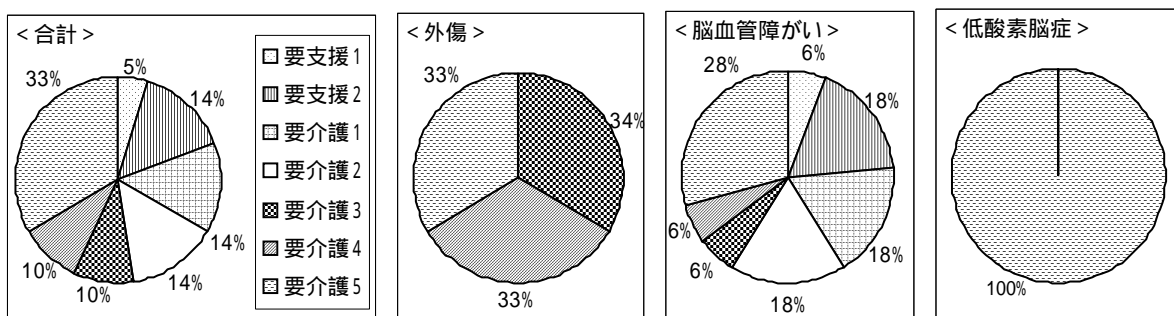
介護保険	有り	無し	合計
外傷	3	49	52
脳血管障がい	17	15	32
低酸素脳症	1	3	4
合計	21	67	88



・介護保険（要介護度別）

介護保険を取得している21人中、「要介護度5」7人（33%）と最も多く、重度介護の割合が多かった。

介護保険	介護予防	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
外傷	0	0	0	0	0	1	1	1	3
脳血管障がい	0	1	3	3	3	1	1	5	17
低酸素脳症	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	0	1	3	3	3	2	2	7	21

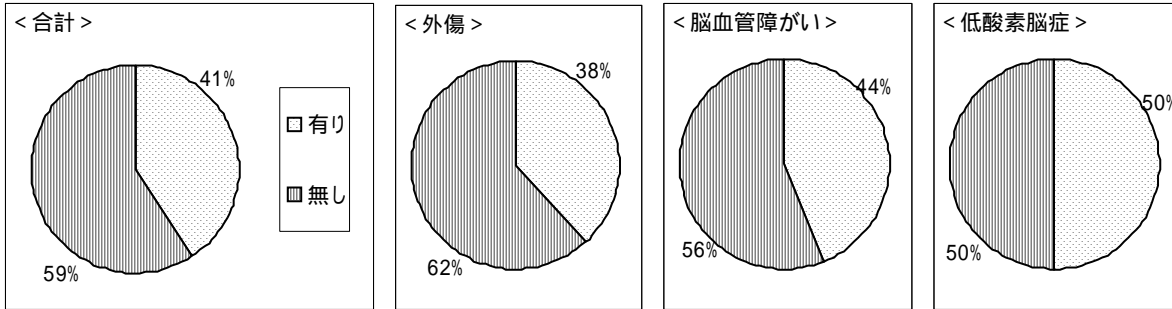


[支援等の認定]

・有無

全体では、支援等の認定「有り」36名(41%)であり、半数以下であった。疾患別でも同様の傾向であった。

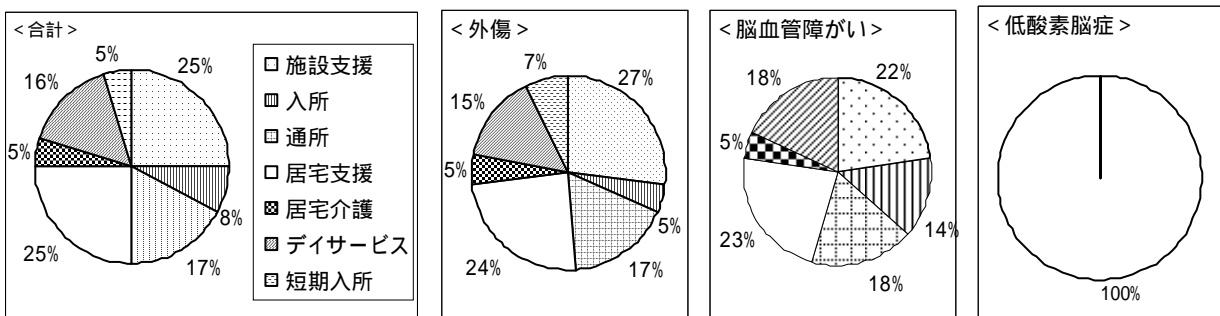
支援等の認定	有り	無し	合計
外傷	20	32	52
脳血管障がい	14	18	32
低酸素脳症	2	2	4
合計	36	52	88



・内容(複数回答)

支援等の認定「有り」36人中、「居宅支援」16件(25%)、「施設支援」16件(25%)で半数を占めていた。

支援等の認定	施設支援	入所	通所	居宅支援	居宅介護	デイサービス	短期入所	合計
外傷	11	2	7	10	2	6	3	41
脳血管障がい	5	3	4	5	1	4	0	22
低酸素脳症	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	16	5	11	16	3	10	3	64

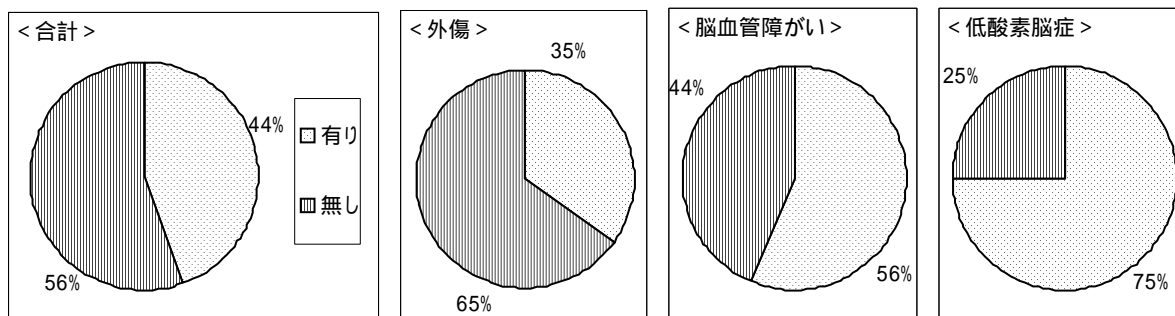


[年金]

・有無

全体では、年金「有り」39人(44%)であった。疾患別では、「外傷」での年金「有り」18人(35%)と最も低い割合であり、年金受給が困難であることが浮彫りにされた。

年金	有り	無し	合計
外傷	18	34	52
脳血管障がい	18	14	32
低酸素脳症	3	1	4
合計	39	49	88



・年金の種類 (複数回答)

年金「有り」の39人中、「障がい年金」24人(59%)と最も多かった。疾患別でもほぼ同様の傾向であった。

年金	障がい年金	国民年金	厚生年金	未記入	合計
外傷	12	1	5	1	19
脳血管障がい	9	2	6	1	18
低酸素脳症	3	0	0	0	3
合計	24	3	11	2	40

